

ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム
(ゲノム医療実現推進プラットフォーム・社会共創推進領域)
令和 4 年度採択課題 事後評価 評価コメント

評価課題名	研究開発 代表者名	所属機関	役職
ゲノム医療・研究推進社会に向けた試料・情報の利活用 と PPI 推進に関する研究開発	吉田 雅幸	東京科学大学	大学院医歯学総合研究科 先進倫理医科学分野 教授

【評価コメント】

本研究開発課題は、「PPI 活動の具現的な基盤構築」という目標を高い水準で達成している。具体的には、PPI 活動に関して、患者・市民とゲノム関連の医療者や研究者、マスメディア、デザイン、コミュニケーション関係者等との対話の場（ラウンドテーブル）を考案し実践的な議論を展開している。また市民公開イベント「DNA の日」の継続的な開催に代表されるように、患者・市民との意見交換を図る機会も意欲的に創出している。このような取組を通して、多様な利害関係者（ステークホルダー）との対話から生じる、PPI への問題意識や関連知識の向上が促進されたものと判断される。患者・市民が参画しやすい環境整備のさらなる醸成に向けて、今回の研究成果が一層、社会において十分に共有され理解され価値あるものとして認識されることを期待する。

一方、本研究開発課題を通して作成された各成果物（資材・ツール等）に関しては、最終成果物の具体的な活用法や改善手法等についても、より重点的に取り組む余地があったように見受けられる。さらに個々の市民・患者（各々の世代や生活環境等）の立場を踏まえつつ、それぞれが知っておくべきこと、知るべき最低限の「ゲノム医療・研究」の枠組みや内容について整理・提示する等、異なる場面に応じた PPI 活動や情報提供のあり方を追求するといった工夫を凝らすことも可能であったかもしれない。

本研究開発課題の今後の発展に向けては、次のような論点を参考にされたい。

- ・本研究開発終了後においても維持される活動と維持されない活動との線引きと両者の明示
- ・本研究開発課題から作成した「患者・市民・研究者向けの資材」の普及方策の具体化
- ・さまざまな研究者や専門家、さらには他の関連学会の関与・参画に向けた啓発のあり方の検討（特に心理的・時間的な負担感といった認識・理由から PPI に関心の低い研究者等への対応）
- ・ラウンドテーブルに参加した患者・市民に関する協力内容の発信と守秘義務の保持との調整
- ・公募要領で記載されていた「総合知」の創出に向けた、企業との連携のあり方についての探求

以上